

## 平成30年度 創価大学 教員免許状更新講習 講習内容

《 必修 》 1講習			
講習番号	講習名	担当講師	講習内容
①	教育の最新事情A	午前:吉川 成司 午後:高野 久美子	言語発達に関する最近の研究をふまえ、教育への示唆を含めて講述する。 子ども達の生活習慣の実態について、インターネット依存の問題点を取り上げ、睡眠教育、自己効力感、そして海外の動向をふまえて講述する。 喫緊の課題である「不登校」と「発達特性のある子ども」に焦点を当て、現状の概説と具体的な支援について講述する。 発達特性に起因する「困り感」理解のための疑似体験を実施し、その心理について理解を深める。
	教育の最新事情B	午前:高野 久美子 午後:吉川 成司	

※AとBの講義内容は同じです。どちらか1つを選択してください。  
2つのクラスを2名の教員が午前・午後を交代して講義を担当します。

《 選択必修 》 4講習			
講習番号	講習名	担当講師	講習内容
②	学校カウンセリングの現状と課題	長島 明純	本講習では、人間理解に関する心理学の知見を確認しながら、いじめ及び不登校への対応を含め、学校カウンセリングに関する今日的課題について整理すると共に、受講者の問題関心に添いながら、演習や事例検討を中心に、実際の進め方について学ぶ。
③	道徳科の指導と評価	石丸 憲一	本講習では、子供たちが一生をどう生きていくかの道標となる心のあり方あるいは道徳性、倫理観について考え、小中高を通じた道徳教育の系統性を考えるとともに、道徳の時間から道徳科に変わることをどう捉え、どう授業し、どう評価したらよいかを考える場とする。
④	学校、家庭並びに地域の連携及び協働	平井 康章	本講習では、学校・家庭・地域の連携のあり方について、単なる理想論の確認にとどまらず、実践上の立場から考察していく。平成27年末に出された中央教育審議会の「地域学校協働」に関する答申も踏まえ、検討を進める。一方的な講義形式は最小限にとどめ、グループに分かれた話しあいを中心に進める。話しあいにおいては、地域性に大きく左右される課題であることも踏まえ、受講される皆さんの各地各校での具体的な取り組みをご紹介いただき、情報共有することを重視する。
⑤	キャリア教育の理解と実践	宮崎 猛	キャリア教育のあり方について実践上の立場から考察する。また、大学院の授業で行われているような授業形態-実践上から考察するだけではなく、今日的意義と課題を本質的な側面から参加者全員で探究していく-を重視するものとする。当日自校のキャリア教育の年間指導計画を持参されたい(可能であれば)。

《 選 択 》 12講習			
講習番号	講習名	担当講師	講習内容
⑥	自尊心について:理論と実践の側面から	富岡 比呂子	本講習では、子どもと教師の自尊心について、理論的・実践的な側面から考察することを目的とする。まず理論的な枠組みを概観し、国際比較研究における日本の子どもの自尊心の現状について紹介する。次に実践的アクティビティやDVD鑑賞を通して教室場面で子どもの自尊心を高める方法について考える。加えて、教師のメンタルヘルスの観点から、教師の自尊心やそれを脅かす要因、また対処法についてディスカッションを通して学ぶ。
⑦	教育の社会学	鶴田 真紀	「教育」について考える上で、欠かすことのできない視点の1つは、社会との関わりである。本講習では、多様な教育現象を社会学という観点からみた場合、どのような認識が展開できるのかを講義する。具体的には、下記のテーマからいくつかをとりあげ、現代の子どもをとりまく多様な問題に関する「ものの見方・考え方」を養うことを目指したい。 ・学歴・教育はサービスであるか・逸脱・いじめ自殺・「優れた」実践とは
⑧	個が育つ、個と集団のデザイン	寺林 民子	本講習では、個の理解について米国の事例、日本の事例から、「個」や、個の性質についての各人の捉え方について吟味する。人間教育の視点から個の捉え方が重要であることの理解を深め、個と集団の関係の中で、どのように「個の成長する姿」をとらえ、子どもの可能性を開いていくかについて演習を通して考える。
⑨	いじめ予防の理論と実践	三津村 正和	本講習の目的は、いじめ防止に必要な視点を、協同学習や演劇等の多様な活動への参画を通して、受講者が協同的に探究することにある。具体的には、いじめに関する国内外の先行研究及び過去のいじめ事例を考察し、いじめの被害者・傍観者・加害者への解決志向アプローチを検討する。各人が「いじめとは何か」についての考えを深め、いじめを起こさない学校文化を構築するにあたっての主体者としての意識の涵養を目指す。
⑩	環境教育・環境科学	山本 修一 桑原ビクター伸一	環境教育は、IPCCなどの報告を主体として地球温暖化の問題を特に取り上げ、その現状と、解決のために行われている対策などを含めた社会的な情勢について講義する。 環境科学は、人間活動が環境に及ぼす影響を探究する学問であり、自然環境と人間活動との間の相互関係や持続可能な環境管理について講義する。
⑪	教員のサービス・職務に係る問題を考える -労働時間、奨学制度、児童・生徒の問題行動などへの法制度的検討-	井上 伸良	教員のサービス・職務において、解決あるいは理解が望まれるトピックについて、判例や行政実例の紹介を交えつつ法制度の側面を中心とした検討を行う。具体的には、教員の負担感(長時間労働)、子どもの貧困と関わって奨学制度のあり方、ネットいじめへの対応などを扱う。講義だけでなく、グループワークも行う。受講にあたっては、スマートフォン、タブレット、ノートPCなど、インターネットを使用できる機器を1点以上持参して頂くことが望ましい。
⑫	教師のメンタルヘルス・マネジメントとチーム援助入門	田村 修一	「教師のメンタルヘルス・マネジメント」と学校心理学を基盤とした「チーム援助」の理論と方法について、演習を交えて講義する。具体的な講習内容は、以下の通りである。①教師のメンタルヘルスのセルフチェック、②職場におけるメンタルヘルス・マネジメント、③学校心理学に基づくチーム援助の理論と方法、④学校におけるチーム援助の実際。

⑬	障害のある人の自立と社会参加	山内 俊久	主に知的障害のある生徒の学校卒業後の就業先の様子について紹介し、特別支援学校における職業教育・進路指導の実際を講義・演習等により学び、障害のある人たちの自立・社会参加のあり方について考える。また、特別支援教育におけるキャリア教育をめぐる動向についても考察していく。
⑭	学校で役に立つ精神医学と精神分析の知識	遠藤 幸彦	本講習では、学校で役に立つ精神医学的な考え方や、代表的な精神疾患などについて講義し、理解を深めるものとする。また、精神分析的な発達理論を紹介し、事例をもとに質疑や演習を重ねながら、その理解のポイントを解説していく。さらに、具体的な事例について、家族関係や集団力動の解説を交え、対人関係の中で生じる心理について理解を進めることを目的とするもので、生徒個人の理解を越え、家族への関わりのヒントともなることも目指している。
⑮	特別支援教育の現状と課題	杉本 久吉	2007年の改正学校教育法施行により、小・中学校等における「通常学級に在籍するLD児等」に対する指導を含めた特別支援教育が開始以来、10年を経過した。その間、わが国独自のインクルーシブ教育体制の構築が、通常の学級、特別支援学級、特別支援学校それぞれの立場で進められてきた。 この特別支援教育の現状と課題について概説するとともに、抽出された課題、その解決方策について、グループ協議を通じて理解を深める。
⑯	算数・数学科における授業づくりのポイント	鈴木 詞雄	全ての児童・生徒が算数・数学の内容を「分かる・できる」ようになるための授業づくりについて講演と実習を行う。具体的には、教材研究の方法や授業ビデオの解説、○付け法や意味付け復唱法を使った模擬授業などを行い、授業技術を高める。
⑰	プログラミング的思考力を育成する授業のデザイン	舟生 日出男	小学校では2020年からプログラミング教育が必修化されるが、授業をどのようにデザインすべきか、具体的にイメージできる教師はまだそれほど多くはない。また、ICT機器の整備状況は学校によって様々であり、望ましい実践例をそのまま適用できるとも限らない。そこで本講習では、プログラミング的思考の育成に焦点を当て、コンピュータを使わないアンブラグドなプログラミングや、通常のパソコンを用いた授業のデザインについて、基本的な知識・技術の習得を目指す。